

1/2号機排気筒ドレンサンプピットの対応について

2021年1月28日

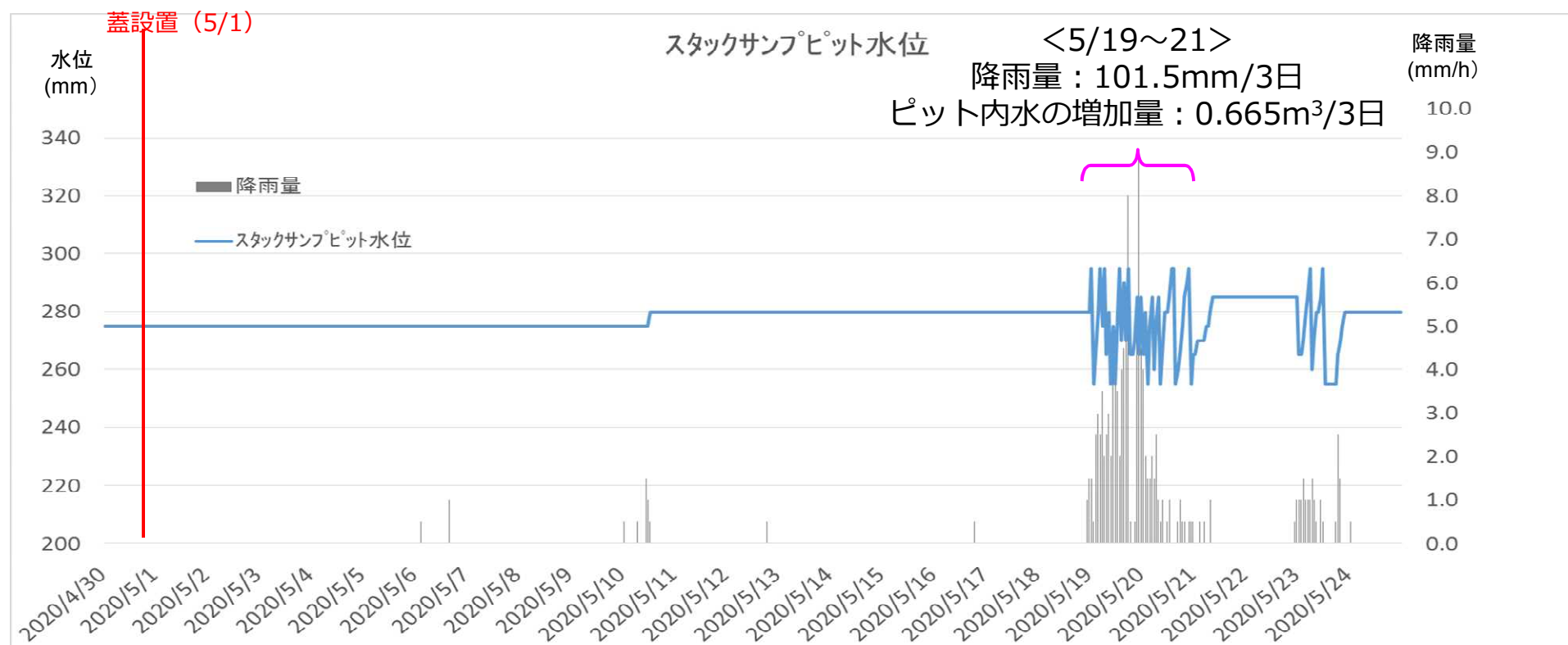


東京電力ホールディングス株式会社

1. 1 / 2号機排気筒ドレンサンプピットの雨水流入について

- 1 / 2号排気筒の解体が完了し、2020年5月1日に排気筒上部に蓋を設置。排気筒上部の開口は約99%閉塞された（蓋設置前：約8m²、蓋設置後：約0.1m²※）ものの、降雨時にピット内の水位の上昇が確認されたため、流入経路の調査を実施した（2020年7月）。
- 調査の結果、ピットの南側から雨水が流れ込んでいると思われる痕跡を確認した。雨養生カバー南側面の開口からピット上部に雨水が入り、主にピット南側から流入しているものと推定した。
- 対策として雨養生カバー南側開口部へのカバー追設を2020年12月23日に行ったが、2020年12月30日および2021年1月12日にピット内の水位上昇を確認した。
- なお、排水ポンプ起動時以外の水位の低下は見られておらず、系外への流出はない。

※蓋側面切欠部と筒身段差部が重なる部分の面積。なお、蓋上部は可能な限り止水処理しており、雨水の流入はほぼ抑制できていると想定



2. 雨水流入対策 カバー追設状況

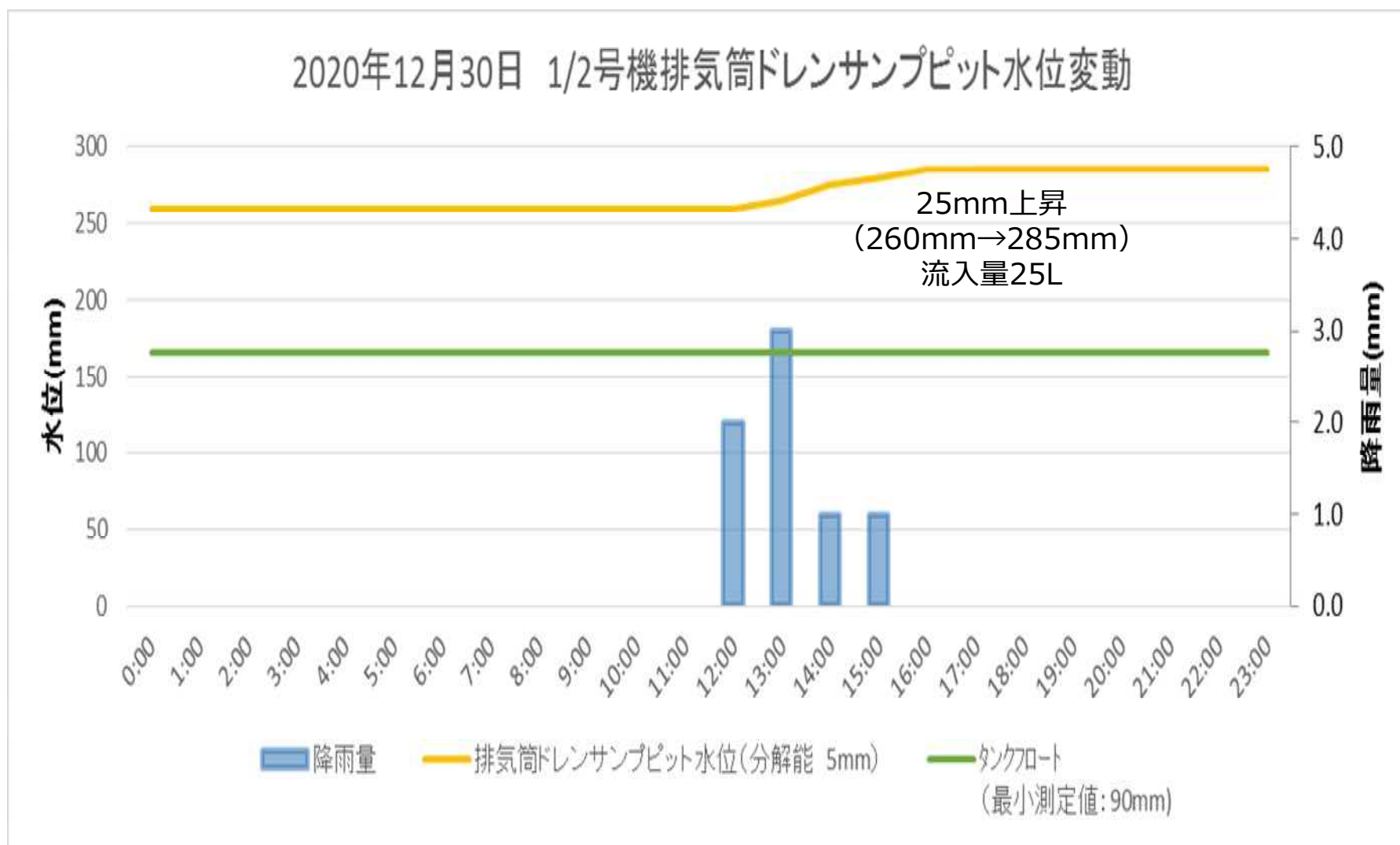


設置前

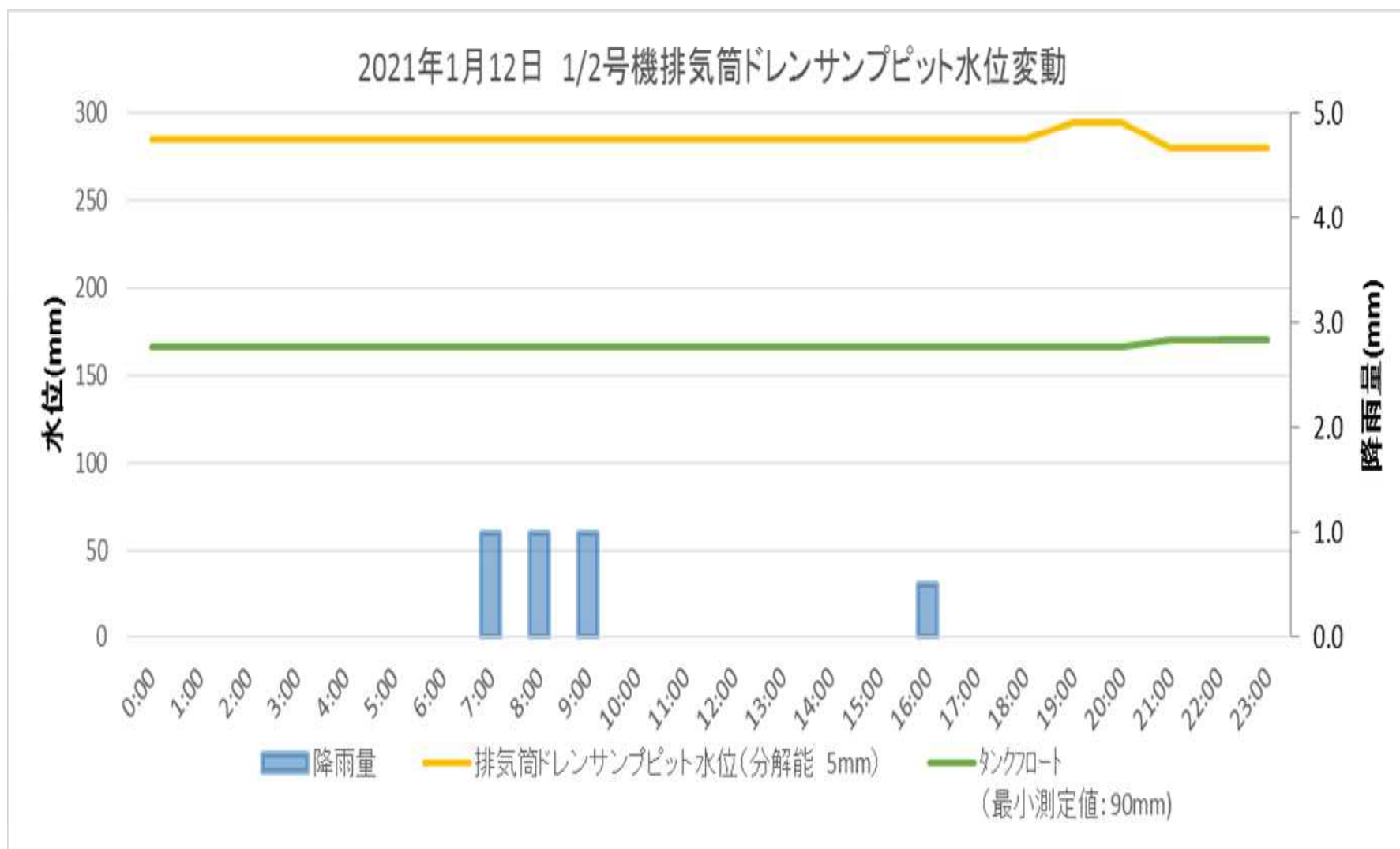


設置後

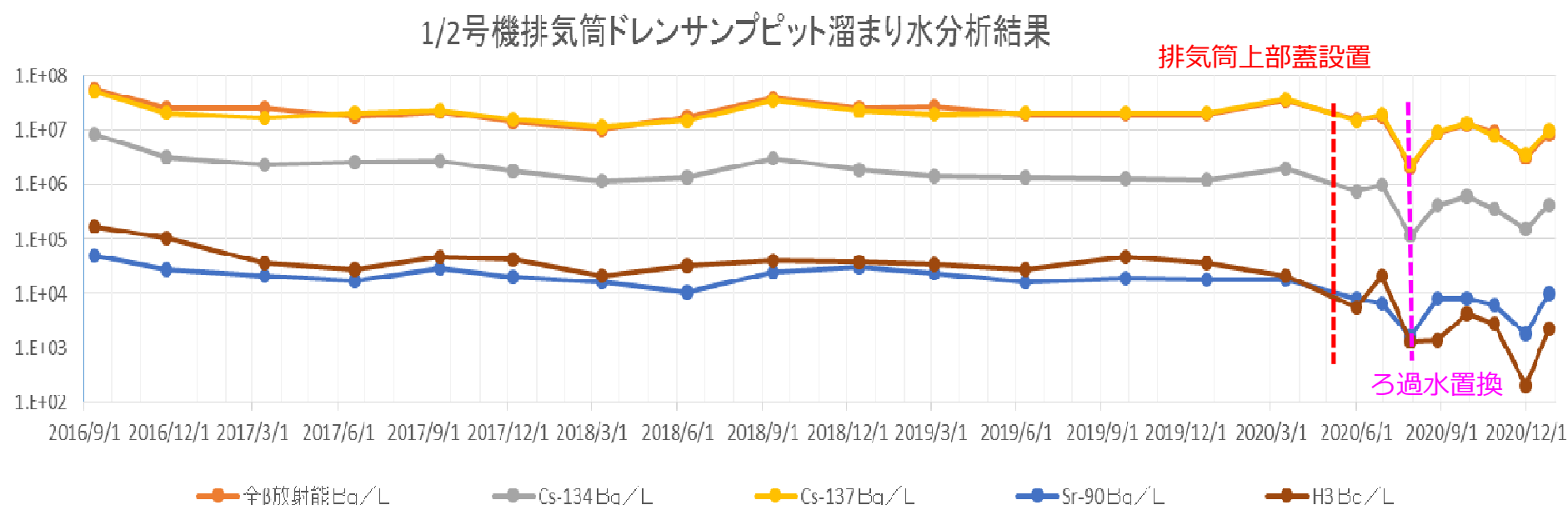
3. 水位データ



3. 水位データ



4. 1 / 2号機排気筒ドレンサンプルピット水質分析結果



- 7月29日にほぼろ過水で置換した後、濃度が一時的に上昇したが、その後は下がり傾向が見られ、12月に再度上昇している。
- 濃度の下がり傾向は、雨水の流入により、ピット周辺やピット内、移送系統内の放射能の付着が徐々に減ってきている可能性が考えられる。
- 排気筒蓋設置前には見られなかった傾向であり、排気筒蓋設置により排気筒内部からの放射能の流入がなくなった可能性が考えられる。
- 引き続き分析を行い、傾向を分析していく。

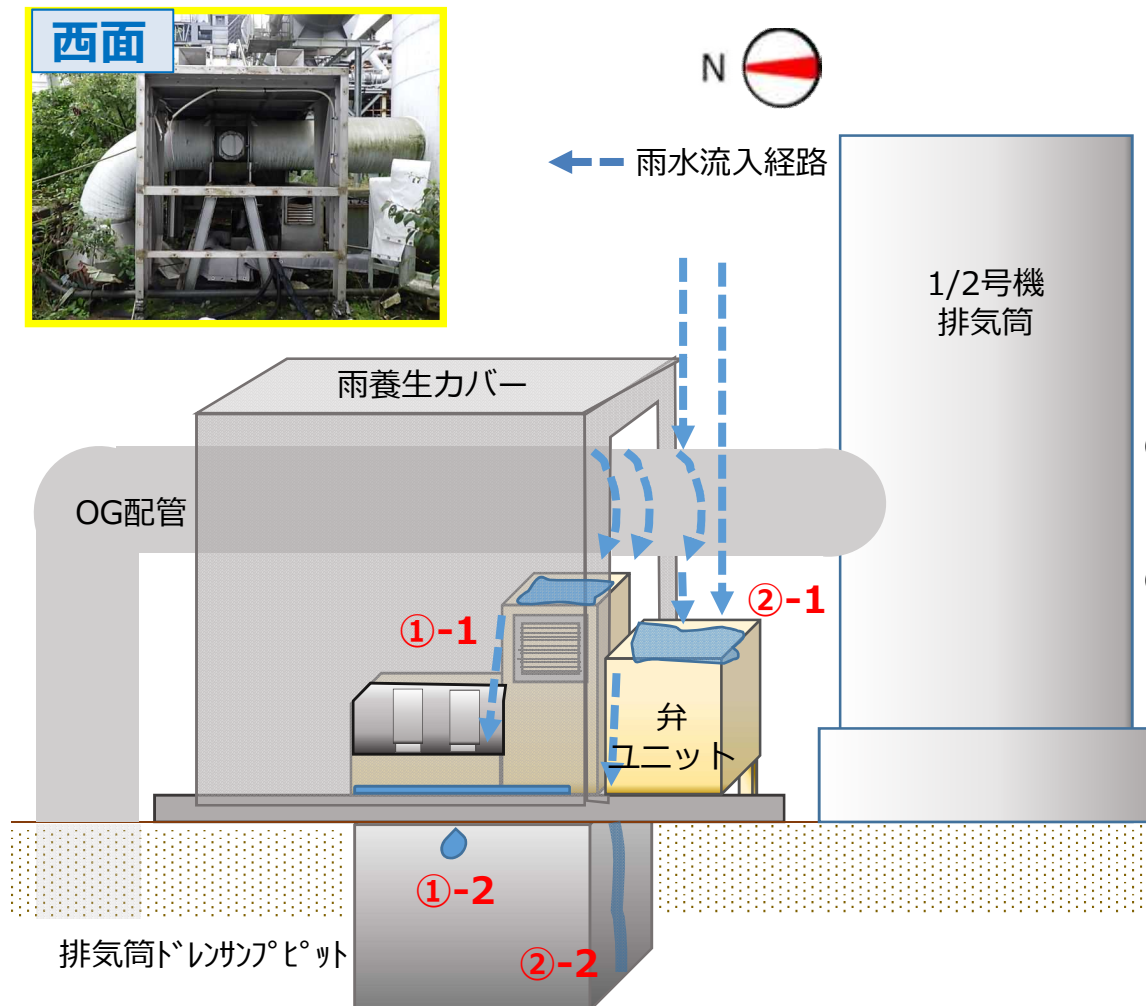
5. 今後の予定

- 追設した雨養生カバーの効果について、降雨時の水位データを蓄積して検証する。
- 雨水の流入によりピット内の放射能濃度が低下している傾向がみられることから、引き続き濃度の分析を行い、排気筒上部蓋の効果について検証する。
- 今回雨水流入対策をした箇所とは別に雨水流入経路がある可能性があることから、流入経路の調査方法を検討する。調査については、雨水流入抑制や放射能濃度低下の効果の検証結果も踏まえ、必要性等について検討していく。

<参考> 雨水流入イメージ（想定）

- 7月14日の内部調査でピット内上部に水滴が確認されたことから、7月15日に外部の状況確認を行った。

（降雨量：0.5mm/h）



- ①-1 OG※配管を伝いピット上部へ流入
- ①-2 ピット天板の隙間（コーキングの劣化等）から内部へ流入し滴下したと推定

①-1



- ②-1 弁ユニットに直接（または配管を伝い）雨があたり、主に南側のピット上部へ流入
- ②-2 ピット天板の隙間（コーキングの劣化等）から内部へ流入し、南側壁面より流れたと推定

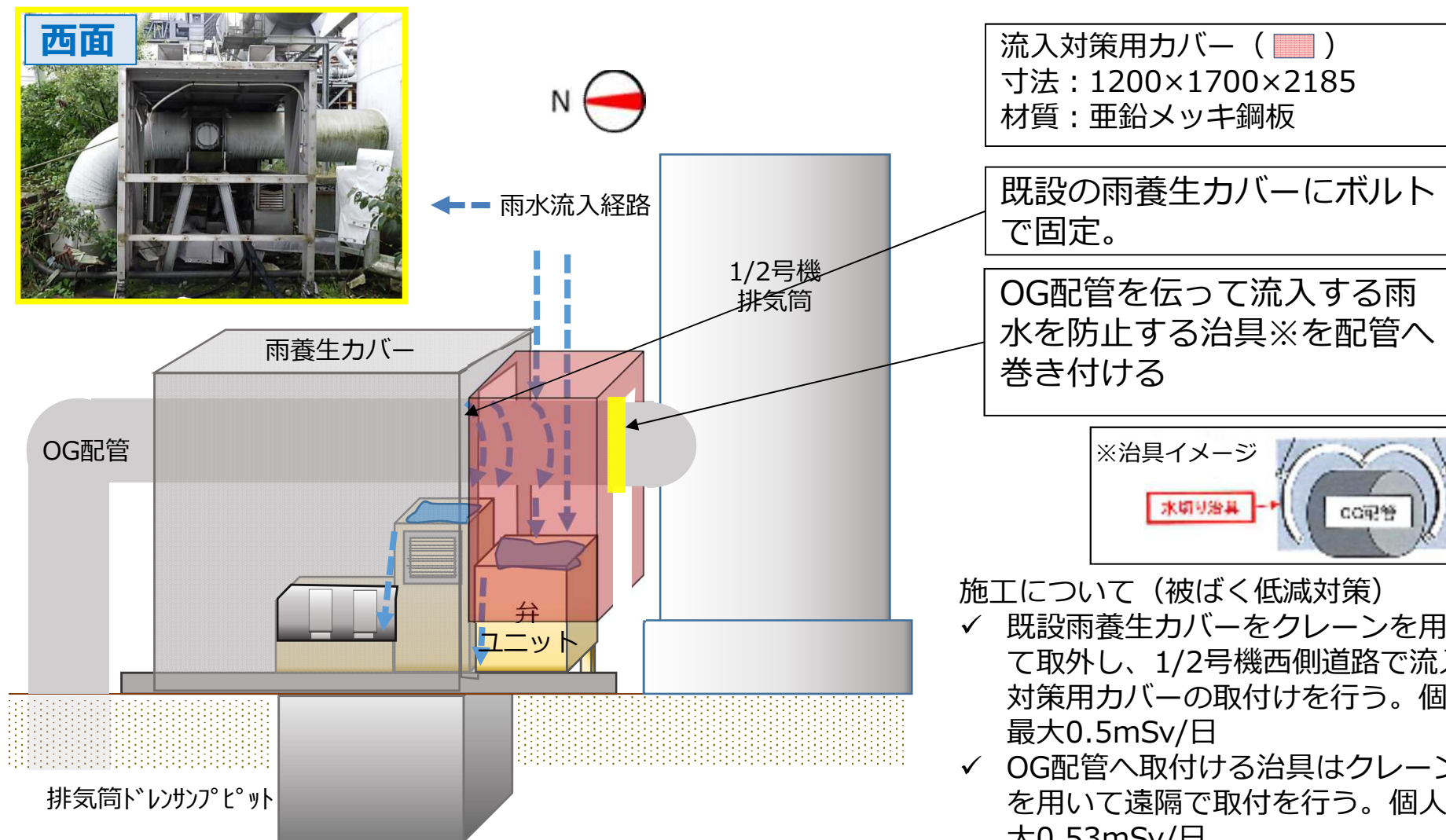
②-1



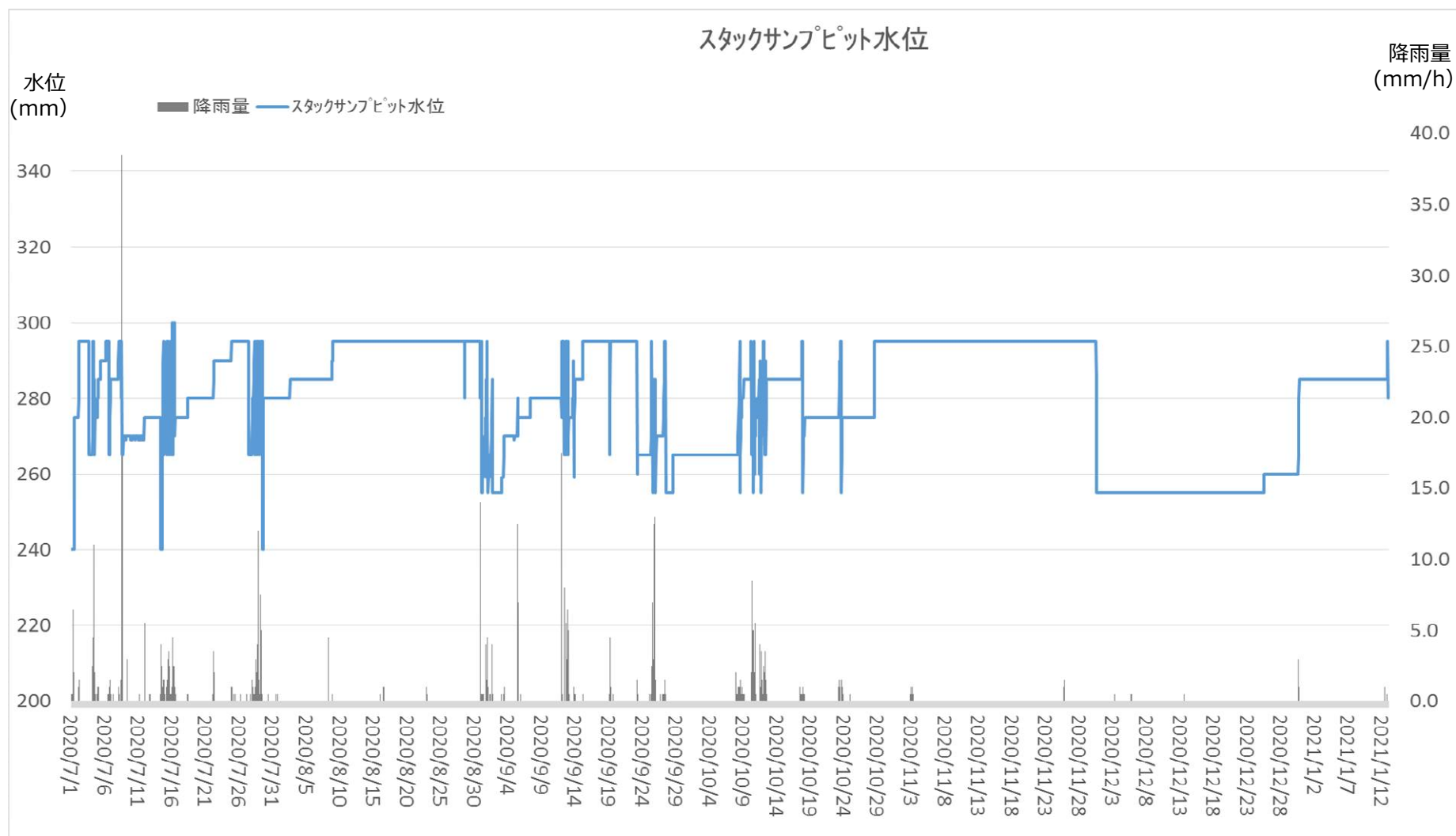
＜参考＞ 雨水流入対策

- 雨水流入経路と思われる雨養生カバーの南面に流入対策用カバーを追設する。

実施時期：2020年12月 施工予定



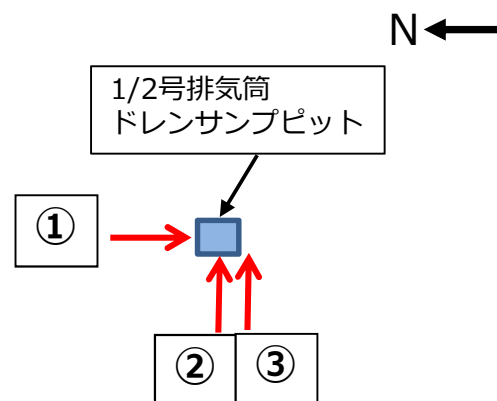
<参考> 1 / 2号機排気筒ドレンサンプピット水位（2020.7～2021.1）



■ 現在ピット内水位については、通常通りの水位制御（300～260mm）を継続している。

＜参考＞ 周辺の線量

TEPCO



⊗ : 表面線量当量率[mSv/h]

× : 空間線量当量率[mSv/h]

2019.12.9測定

測定器
ホットスポットモニター
(テレテクター)

